

Trial & Error

No.252

May - June 2006



〈パキスタン北西部、バタグラムにて〉

特集

現地レポート
パキスタン大地震から3ヵ月

極寒の被災地に生きる人々

〈サブ特集〉

JVC STAFF 2006



極寒の被災地に 生きる人々

広報担当 広瀬 哲子

■地球をやっかい事が次々に襲う。その度に以前のやっかい事が人々の記憶から消えていく。しかし、そこには人々の暮らしが厳然としてあり、困難を乗り越え生き抜こうと苦闘している。大地震に見舞われたパキスタンもそのひとつ。現場を歩き、NGOの役割を考えた。(編集部)

■一面に広がる瓦礫の山

これが被災から三ヵ月も経った姿なのだろうか。目の前には瓦礫の山が広がっていた。激しく裂けて崩れ落ちた家の残骸が、真冬の冷たい空気にさらされている。

○六年一月。ここはパキスタン北西部、バタグラム県。七万五千人以上が亡くなり二百万人以上が家を失う甚大な被害を出した、昨年十月のパキスタン地震の被災地だ。

私たちJVCは被災直後にテントや毛布を配布し、その後は仮設トイレの設置をサポートしてきた。真冬を迎えた被災地で、人々はどう暮らしているのか。そして今私たちに求められていることは何か。厳寒の被災地を訪問した。

■孫が下敷きになった

瓦礫から薪を拾う

瓦礫の山で、一人の老婆が板切れ

を拾っていた(写真・上)。暖をとるための燃料にするのだという。「住む所も薪も何もかも足りないんだよ。この瓦礫を片付けられないことには何も始まらないよ」

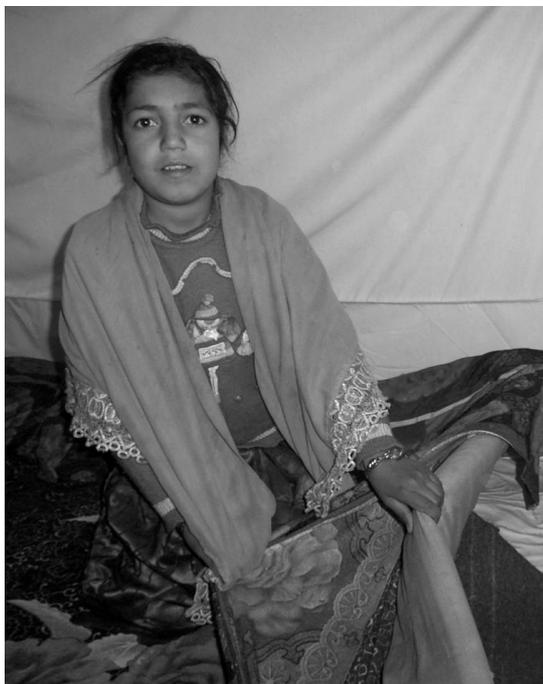
被災地では朝晩は氷点下の寒さになるにも関わらず、薪などの燃料が著しく不足している。

人口六百人のこの村では、地震で三十八人が死亡。彼女の孫も、この瓦礫の下敷きになって亡くなったそう。生き延びた人々は、身近な人を失った悲しみを抱えながら冬に立ち向かっていた。

■毛布の上で身を寄せ合う

バタグラムは標高約千六百メートル。十二月から雪が降り始め、一月には朝晩は零度を下回る寒さとなっていた。そんな状況の中で、多くの被災者はテントでの生活を続けていた。壊れた家の近くに建てた、不安定な枠組みと薄い布の避難テントだ。テントに足を踏み入れてみる。靴を脱いで敷物に上がると、地面からの冷たさがひやりと伝わってくる。土の上にビニールシートと薄い毛布を敷いているだけなのだ。テントの奥では、ありったけの毛布を重ねて子どもたちが身を寄せ合っている。じっと座っていた少女は、身振りで床の寒さを訴えた(写真・次ページ左上段)。また、ほとんどのテントは冷気を遮るほど十分な厚さがない。

■ 極寒の被災地を 生きる人々



■ テント内にも冷気が地面から伝わってくる。

■ 冬を生き延びるために
パキスタン政府が初期支援金として被災家庭に分配しているのは二万五千ルピー(約五万円)。春までの間何とか家族が食べるものはまかなえそうだが、住居の修復には全く足りないという。

村の復興を支える

ビニールを重ねたり、トタン板を乗せたりと工夫しているものの、氷点下の環境を過ごすには厳しい。この状況を前に、私たちはどう動くべきなのか。

一月の時点で被災者が直面している最大の困難は、この寒さに耐える居住空間の確保の難しさだった。私たちは共に支援活動を行なっている地元NGO「SPADO (Sustainable Peace and Development Organization)」の仲間たちと被災地を回り、話し合った。「防寒対策にストーブはどうか?」
↓ テントの火災という大きな危険がある上、燃料の継続的な確保で住民に金銭的な負担がかかってしまう。「地面の冷えを遮るためにウレタンマットはどうか?」
↓ 効果は高いが値段も高い。配布先が限られてしまう。不公平感を生んではならない。

■ 冷気を遮るための 必需品、トタン板

すでに地域になじんだ物で、住民自身が使い方をアレンジでき、テント生活を終えても使えるものは何か。「トタン板はどうか?」

壊れた家の壁や屋根として、またテントに乗せて外気を遮るなど、トタン板は汎用性が高い(写真・中段)。行政も被災家庭にトタン板を配布しているが、冬を越すには明らかに数が不十分だった。私たちは特に必要性の高い被災者にトタン板を配ることを決めた。

配布したトタン板に釘を打ち、壊れた家屋を修復する作業は住民自身が担う。被災した人々の間に生まれ

■ 壊れた住居をトタン板で補修する。



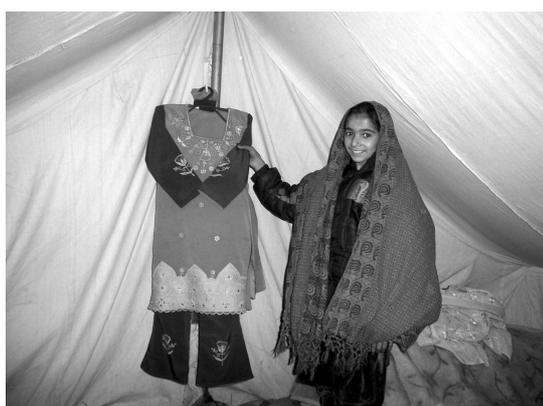
てきている、自ら復興しようという気持ち。この兆しを支えていきたい。

■ 援助への依存を 生まないために

物を配る支援は、より一層の慎重さが求められる。支援をすることで住民に依存心を生み、自立への動きを妨げてしまうことがあってはならない。また、求められるがままに援助をし、一部の人々や地域に物資などが重複してしまうことがあってはならない。

あくまで復興は住民自身の手で主導されるべきだ。その理由からも、今回のJVCの支援は地元NGOを支える形で行なっている。

■ テントの中に新しい服を飾っていた。



■ 極寒の被災地を生きる人々

パキスタン大地震での JVC の動き



■十月十四日、被災地調査



■十月十四日、緊急用テント及び毛布を配布(終了)



■十一月二十日、仮設トイレ支援開始(継続中)



■一月二十二日、越冬用タンク板及び毛布支援開始(継続中)

いるのは、被災地域に暮らすスタッフだ。外側からの判断だけでなく、被災者の立場で支援を進めていく。

また、援助の重複が起こらないよう、そしてより効果的な活動に必要な情報交換のため、他団体とのネットワークに積極的に参加している。同じ地域で支援に取り組む団体が「水」「衛生」「キャンプ運営」など分野別に集まり、毎週会合を行なう。現地行政、国連組織、国際NGO…。会議に並ぶメンバーは立場も国籍も様々だが、被災者が少しでも早く元の暮らしを取り戻して欲しいと願う気持ちは同じだ。

■ 仮設トイレの設置が進む

JVCが被災後からいち早く取り組んでいるのが、仮設トイレの設置だ。テントでの集合生活を営む中で、衛生的なトイレは必須だ。特に、文化的側面から行動が制限される女性たちに求められている。また、春が終わり気温が上がってくると、衛生環境の悪さから広がる病気も深刻な問題となり得る。衛生的なトイレは、その事前対策的な意味合いも持つ。

囲いとなるビニールシートを取り付ける。この作業のための人手を出すことができ、完成後には利用者たち自身が管理していけるか。これらの条件を事前に確認した上で、JVCとSPADOは土台やシートなどの資材を提供する。これまでに百四十二基(三月二十七日現在)を設置することができ、老若男女に活用されている。

テントの中に 見つけた春

冷え冷えとした避難テントが並ぶ

中で、ほっとした光景に出会った。テントの中に、断食明けのお祭りのためにあつらえた色鮮やかな女の子の衣装が飾ってあったのだ(写真・前ページ左下段)。鮮やかなグリーンとワインレッドの生地に、金色の刺繍が施されている。家族で季節のお祭りを楽しみ、美しいものを求める気持ちは、瓦礫に囲まれた被災地でも失われていない。テントの横では、新しい服を縫うためのミシンが太陽に輝いていた。

今、被災地の人々は力強く立ち上がり始めている。暖かく春を迎えることができるよう、できる限りのサポートを続けていきたい。



山崎 勝 (SARD、TRC 担当)

1 心・技・体を鍛え、活動の向上をめざす。事業地だけでなくカンボジア全体も視野に入れる。

サム・ネアリー (SARD 担当)

2 SARD活動が成功裡に終るよう懸命に働く。4月のクメール正月に夫の故郷を訪れたい。

チューン・ソチェット (SARD 担当)

3 SARD 事業を終らせ新事業を続けるため懸命に働く。夫の故郷も訪ねたい。

ポク・ヴィリアック (SARD 担当)

4 SARD 事業を成功裡に終らせ、新事業を円滑に始める。仏教式典の開催。家族旅行。

JVC Staff 2006

80名、今年度の抱負



ヘン・チンダ (SARD 環境教育、AR 兼草) ※注①

5 ファシリテート能力と英語力、環境教育計画の改善。環境管理と農村開発の奨学金獲得。

パオ・リツ (運転手、SARD 補佐)

6 安全運転にもっと注意をしよう。家族とシエムリアップに行きたい。

ピン・パン (運転手、総務補佐)

7 安全運転と車の維持管理にもっと注意をしよう。家族とシアヌークビルに行きたい。

ケツ・チャントウ (TRC 担当)

8 利用者を惹きつけるため、TRC 図書室に入れるクメール語の文書を探したい。

ウン・コック・エン (TRC 兼 NTFP 担当)

9 TRC 図書室により多くの文書を入れるため、他団体と協力する。ラタナキリに住みたい。

米倉 雪子 (現地代表、技術学校、AR)

10 「日本は国際協力分野でも世界一流となるよう夢と希望を持ち、まずは自分の活動の質!?

ノブ・ティム (技術学校)

11 技術学校と修理工場の移転問題と管轄省移管問題の解決策を考え、できることから実現。

スレイ・ネアン・メアツ (会計、総務担当)

12 管理活動と英語力の改善。公認会計士資格取得のため奨学金獲得。ポイペトに行きたい。

サ・シネン (清掃担当)

13 JVC 事務所がより衛生的であるように懸命に働く。

チン・ブン・ヒエン (警備)

14 JVCの資財を守るために懸命に働く。家族とシエムリアップに行きたい。

ダン・ソン (警備)

15 事務所の周りの環境条件を改善するため懸命に働く。

岩間 邦夫 (現地調整員)

16 過酷な環境のスーダンでの生活に耐えられるよう今年こそ心の支えを見つける。

ド・ティ・トゥ・フオン (ホアビン事業担当)

21 今年はしっかりと旦那さんの機嫌をとれるようにする!

藤井 卓郎 (現地調整員)

22 今年こそは、白髪の似合う中年になりたい。無理だとは思いますが。

堤 由貴 (津波被災地支援調整員)

23 忘れ物をしない、時間に遅れない、物を落とさない・壊さない。

森本 薫子 (インターンシップ 会計、総務担当)

24 1月に生まれたいの水牛「大きい(名前)」との信頼関係構築。

伊能 まゆ (現地代表)

17 意気込み過ぎるとかえって痩せられないので、スローにロハスに? 痩せる!

栗原 謙治 (ソラ事業担当)

18 部屋に眠っている貴重な資源(本)を有効活用するため、脱「積読(つんどく)」宣言!

グエン・カック・フン (アドミ担当)

19 自分のマネージメント力を向上させ、ベトナム事務所の管理・運営体制を強化する!

ブイ・トゥアン・ニャー (ソラ事業担当)

20 活動終了後も地域の人々がモニタリングできるようにしっかりとした指標を作成する!

バキスタン

タイ



名村 隆行

(現地代表)

25 ラオス5年目。唐辛子をばくばく食べてしま
う息子に、お吸物の味でも教えてやりたい。

賀川 正弘

(新規地代表)

26 ローカルスタッフとラオス語でコミュニケー
ションを計り、プロジェクトを引き継ぐこと。

新井 綾香

(プロジェクトマネージャー)

27 スモーカーで自家製ベーコンとスモークチキ
ン作りに挑戦、タケク在住の外国人に販売？

グレン・ハント

(ネットワーク アドボカー担当)

28 アドボカー提案を出すため、ラオス国内の
NGOや国際機関とのネットワークを拡大。

スワニー・マントンディー

(会計、アドミ担当)

29 仕事を責任を持ってきちんと時間通りに終わ
ること。英語と会計のスキルを磨きたい。

ブンシン・サナホーン

(農業担当)

30 家を増築したから、もう1人子供(女の子)
が欲しい(今は男2人のみなので)。

フンパン・センチャント

(農業担当)

31 村人に一番あった開発の方法を助言できるよ
うになる。英会話の基本ができるようになる。

スックニーダ・スオトキ

(森林担当)

32 ラオス北部の旅行。自然資源管理や村人の能
力向上に詳しい人たちと繋がっていきたい。

ビリー・チャイタヨンチアサイ

(森林担当)

33 村の発展のために持続性のある支援をする。
英語とコンピュータもがんばります。

谷山 博史

(現地代表)

34 スタッフの安全と結束。村人との信頼親交。
未来を見通す智力を磨き災いを福に転じる。

本間 一

(プログラム調整員)

35 満2歳となるメスの番犬から、テレパシーで
アフガン流読心術を会得し、勝ち組へ移籍。

谷山 由子

(アドミ、女性活動担当)

36 遅いアフガンの母親たちの声が復興に反映
されるよう、体力の続く限りお手伝いしたい。

ハヤトラ

(医師、プログラム担当)

37 活動対象地の医療水準を向上させ、JVCア
フガンの発展にあわせて自己研鑽を積む。

シャフル

(医師、ヘルスワーカー担当)

38 コミュニティーヘルスワーカーを育成し、地
域住民のため季節病や風土病を減らしたい。

バリアライ

(建築士、診療所増築担当)

39 小規模でもJVCの名に恥じない、県下でトッ
プクラスの診療所新ルームを完成させる。

ゾルファカール

(看護師、薬局担当)

40 医学部への転入を止めて、引き続きJVCと
村人と協働で僻地医療に関わっていききたい。

マーグル

(写真なし) (助産師、母子保健担当)

41 女性患者に頼られる存在でありたい。将来に
向け、英語やパソコン技術も身につけたい。

レイルマ

(伝統産婆担当)

42 10人の我が子の未来のために、一生懸命業
務と研修に努めて給与アップを目指したい。

アフガン・グル

(調理、清掃)

43 一家の稼ぎ手として、今年も日本人から学び
全スタッフと一緒に頑張る仕事をしたい。

アフガニスタン事務所

デラワール

(警備主任)

48 将来に備え、英語力アップも計りながら仕事
に打ち込んで自分の長所を磨いていきたい。

タリブジャン

(事務所警備)

49 まずはJVCへの貢献、それから英会話とパ
ソコンを勉強して地位の向上を目指したい。

エザトゥラ

(現場警備)

50 自分の職責を良心にかけて全うする。されば
アッラーの神が家族に幸せを与えてくれる。

ストーレイ

(ヘルスワーカー担当)

51 今年はヘルスワーカートレーニングだけでな
く、農村での保健衛生教育にも携わりたい。

ファヒーム

(会計担当)

44 アフガンが将来先進国の仲間入りを果たすの
を信じ、回教の奉仕精神で仕事に立ち向う。

ハミドゥラ

(渉外通訳、調達担当)

45 母子健康や教育に力を入れているJVCで真
面目に働き、市内で住宅用地を購入したい。

サビルツラ

(運転手、オフィスアシスタント)

46 今秋長女が小学校に入学するまでに、事務所
のセキュリティオフィサーに昇格したい。

シャー・モハマッド

(運転手)

47 家族のためJVCのためにも安全運転を心が
け、借家から脱出するべく貯金を始めた。

東京事務所

61 壽賀 一仁 (事務局次長)
「ニューリンガル」で猫語を学び、自宅に来る野良猫のゴローと会話して癒されたい。

62 香取 佐和子 (経理担当)
オープンカレッジで「日本の年中行事」を学び娘たちに伝えたい!

63 鈴木 まり (カンボジア担当)
子どもの頃好きだったこと(手で作る、弾く、打つ、滑る...)をもう一度。

64 川合 千穂 (ラオス担当)
おやし丸出しのダンナに対抗して「おばさんギャグ」力を強化する!

65 西 愛子 (ベトナム担当)
最近エアロビクスに通い始めた。〇〇年後に老人ホームでインストラクターをやるのが夢。

66 松岡 京子 (タイ担当)
夫婦喧嘩を減らす。なるべく文句を言わずに「できる範囲で」の掃除・洗濯を心がける。

67 渡辺 直子 (南アフリカ担当)
習い事を始める! 陶芸、ダンス、語学と迷っているうちに一年過ぎないように気をつけよう。

68 長谷部 貴俊 (アフガニスタン担当)
「平和のありかた」を探求し、行動したい。アフガニスタンの前に家庭かも?

69 田村 祐子 (パレスチナ、イラク担当)
5年前に習い始めたブラジルの武術アートの世界に、もう一歩深く踏み込んでいく予定。

70 下田 寛典 (スマトラ沖津波支援担当)
ビルマ語を始める! 5年前お世話になったビルマ人の友達に再会して御礼が言いたい!

71 寺西 澄子 (コリア、会員担当)
上野の朝鮮食材店のおじさんに「ぼく」と呼ばれないよう、髪を伸ばし、化粧に励む。

72 高橋 清貴 (調査研究・政策提言担当)
紛争の原因、ODAのあり方、NGOの将来などを考え直すためにもっと現場に入る。

74 エミリー・パーキン (リサーチャー)
食べるのが下手な私。トマトソースのスパゲティをきれいに食べられるようになる!

75 細野 純也 (会報誌レイアウト、総務担当)
自転車関連の財力&体力アウトプットの多さに反省、仕事の知カインプットに努めます…。

76 広瀬 哲子 (広報担当)
大地震の電車ストップに備えて、事務所(上野)から自宅(吉祥寺)まで一度歩いてみる!

77 荻野 洋子 (カレンダー事務局)
今、タイとブラジルにまい進。いえ、踊りの話。仕事も身体もリズムカルにね。

78 石川 朋子 (広報担当、コンサート事務局)
「苦手なものへの挑戦」パソコン、漬物、掃除、作文、営業…積極的に取り組みます。

79 藤屋 リカ (現地調整員)
読もうと集めたのに本棚で眠っている中東問題に関連する本を1冊ずつ読破していく。

80 原文次郎 (現地調整員)
東京でも現場でも、自炊が欠かせませんが、メニューのレパートリーを増やしたいです。



南アフリカ事務所

56 小林 恭恵 (農村開発担当)
南アフリカから日本へ。妹に注意されないような服装で外出できるようにする。

57 青木 美由紀 (HIV/AIDS担当、シェアから参加)
もう日本に帰っても大丈夫、とってもらえるくらいパートナー団体を組織強化したい。

58 熊岡 路矢 (代表)
「年の割にはやるこたあ若い」と言われたい。ユーキャンでペン習字を修得したい(笑)。

59 磯田 厚子 (副代表)
新たなことに挑戦! 勤務先大学併設の農園で(片道徒歩20分!)ハーブや野菜作り!

60 清水 俊弘 (事務局長)
庭に石窯を作ってうまいピザを食う!

73 金 敬黙 (調査研究・政策提言担当) (コメントなし)

52 津山 直子 (現地代表)
夫にやさしくする(怒る前に3回深呼吸)。心と心の繋がりを大切に活動が続けたい。

53 ドウドウ・ンカビンデ (アドミ担当)
ゾラ聖歌隊での訪日は最高の思い出。今年も仕事と歌を両立させ、がんばりたい!

54 ティム・ウィグリー (自然農業専門家)
愛妻といっしょに、自然農業と仏教の精神にもとづいたコミュニティ作りをしたい。

55 シンピウエ (農村開発アシスタント)
長年付き合っている彼女と結婚して、家族みんなで仲良く健康に暮らしたい。

足元を覆う「新しい貧しさ」を世界の現実とつなげよう

＝ WTO 交渉がもたらす現実をどうとらえるか ＝

脱WTO草の根キャンペーン実行委員会事務局長 大野 和興

WTO (世界貿易機関) はいま、加盟する世界 149カ国の政府とともに、自由貿易の新しい枠組みを作る交渉を進めています。交渉の分野は農林水産、工鉱業、第三次産業、さらには水、福祉、教育といった公共部門にまで及びます。JVCが世界各地で進める平和への取り組みや農村づくりにも大きな影響を及ぼす WTO 交渉の行方を追いました。(編集部)

■暮らした全領域で市場競争を

WTOが発足したのは九五年です。その前身はGATT(関税と貿易に関する一般協定)で、世界経済の秩序を自由貿易の推進という形で実現するために第二次大戦後に世界銀行やIMFと並んで作られた国際機関です。WTOは自由貿易に違反した国には制裁権まで持つより強力な国際機関として、GATTを再編強化した組織です。

現在進められている交渉は、WTO発足後最初の多国間の多角的交渉で、加盟国がいつせいに交渉の席につくことから、円卓を意味するラウンドと呼ばれています。多角的とは、モノ(商品)だけでなく、金融や保険、運輸といったモノ以外の分野、さらには医療や福祉、水、土地など公共の分野まで含む、人々の暮らしの全領域を市場競争の対象としていこうとしていることから、そう呼ばれています。

WTOの交渉で最上位の決定機関は加盟国の関係閣僚が集まる閣僚会議です。〇五年十二月十三日から十八日にかけて、香港で第六回の閣僚会議が開かれました。現在進めているラウンドの大枠を決め、交渉スケ

ジュールを確認するために開かれたものです。この席で〇六年中に最終合意をめざすことが確認されました。

■途上国にしわ寄せを強いる仕組み

交渉のテーマは多岐にわたりますが、大きく三つの分野に整理できます。農産物、非農産品、サービスです。それぞれについて、交渉の現段階を簡単に整理してみます。

農産物

この分野の最大の争点は

輸出補助金です。穀物、綿花など重要農産物はアメリカやEUが輸出国として強い競争力を持ち、全世界に市場を拡大しています。その際武器となるのが豊富な財政力にものを言わせた輸出補助金です。輸出補助金とは、例えば小麦の生産費が国際相場より高い場合、その差額を埋めるために支払われる政府助成のことです。これによって輸出国は自国の生産者の利益を守りながら、安く農産物を輸出することができます。アメリカ、EUは補助金つきの安い農産物を世界中にダンピング輸出することで、途上国の国内農業を壊し、市場を奪っています。香港会議で

は二〇一三年までにアメリカとEUはこの輸出補助金を廃止することが確認されました。しかし、輸出補助金削減分を、例えば生産資材や土地改良への助成と名目を変えて削減対象となっていない国内補助金に振り込ませて、実質的に輸出補助金と同じ効果を発揮させるやり方をアメリカやEUは取っており、途上国側は「実質的には何も変わらない」と批判しています。

一方、日本への影響は、コメや酪農製品といった日本の農業の根幹である重要品目の関税大幅引き下げという形で現れます。規模が小さく生産費がかさむ日本の農産物は、関税を高く設定することで重要品目の衰退を免れています。それでもこの十年間で生産者の手取り米価はほぼ半分になり、農業で生活できなくなつて耕作放棄する農家が続出しています。これ以上関税が下がると農業は歯止めのない衰退に進むことが確実です。

非農産物

鉱工業製品、木材、水

産物など農産物以外のモノはすべてここに入ります。この分野について香港では、高関税のものほど関税削減率を大きくすることが決まりました。これらの

製品の関税は途上国ほど高く設定されています。経済的自立に向けて自国産業を保護するためです。その関税を引き下げなければならなくなるわけですから、途上国経済は大きな打撃を受けることとなります。

また水産物や木材の関税引き下げは乱獲、乱伐を誘発し、環境破壊を促進するでしょう。

サービス

今回のラウンドの特徴

は、モノではない領域の市場経済化が大きな争点になっていることです。金融や保険、観光、運輸、映画や音楽など文化といったものに加え、エネルギー、上下水道、廃棄物処理、医療、福祉・介護、教育、公共交通といった、これまで国や自治体が公共サービスという形で担ってきたものに対し、外資参入を促して民営化し、市場でサービス競争をさせようというものです。いずれもアメリカ、EU、日本など先進国の企業の得意分野であり、この分野の自由化が進むことは、市民の暮らしの全領域を多国籍企業に明け渡し、営利の対象にすることを意味します。香港会議ではこの交渉をスムーズに進め、途上国が受け入れざるを得なくなる交渉方式が採用

されることになりました。

「商品作り」の押し付け

今回のWTO交渉には影の主役がいます。日本政府が得意顔で宣伝してまわっている「開発パッケージ」なるものです。後開発途上国に対し、三年間で百億ドルの金を出して、輸出用商品作りを促進し、その流通・販売にも手を貸そうというものです。生産から販売までセットで面倒を見るので、日本政府は「パッケージ」と呼んでいます。日本だけでなく、アメリカやEUも、同じような後開発途上国向けの開発促進資金を用意し、香港会議の最中、後開発途上国政府

代表を招いて発表しました。

「後開発途上国が貧しいのは、商品として売るものがないからだ」という考え方が、このパッケージの基本的な発想です。だから、農産物を中心に輸出できる商品を作り、日本国内での販売まで含めて面倒を見ようという中身になっています。こうした援助と引き換えに、自由貿易に抵抗する途上国をWTO交渉の土俵に引きずり込もうという算段なのです。

日本の百億ドルは既存のODAを組み替えただけのまやかしですが、いずれにしてもこれから数年、巨額の金が貿易促進という名目で最貧国に集中投下さ

れます。日本市場向けに日本の品種が持ち込まれ、日本市場で売れるように農薬漬けのきれいな産物が作られ、きれいに包装されて輸出される、貴重な土地

資源は自国の民の食糧生産ではなく先進国の豊かな消費者向けにまわされ、環境も壊される、そんな未来像がうかんできます。

■足元から運動を作る

香港には一万人を超える市民・農民組織やNGOが世界中から集まり、連日WTO交渉への抗議行動を繰り広げました。前述の「開発パッケージ」についても、日本から参加した団体・個人で反対声明を作り、各国政

府代表や市民・NGOに対してキャンペーンを行ないました。

WTO社会ともいえるべき現実には、すでに世界を覆っています。容赦ない市場競争がもたらす環境破壊、貧しさや飢餓の拡大、そこから生まれる絶望と憎悪、紛争などです。この日本の社会でも、雇用の縮小と働くものの格差の拡大、地域社会の解体、農林漁業の衰退、社会からはじき出される人の増大など、WTO社会は足元の現実として、私たちに迫っています。日本を覆うこの「新しい貧しさ」と世界の現実をつなぎながら、もうひとつの世界を作る運動を進める必要があります。



■十二月の香港会議に対する抗議行動には、日本や韓国を始めとしてアジア各国や世界中から市民・農民グループが参加した。

脱WTO草の根キャンペーンとは？

WTOが進める自由貿易・市場経済化は世界中に人権と環境の破壊、貧しさの拡大など様々な問題を引き起こしています。脱WTO草の根キャンペーンは、働く現場、暮らしの現場で起こっているそれらの問題をつなぎ、「そうではない世の中」を作ろうと活動している団体、個人のネットワーク組織です。

03年に発足、シンポジウムの開催や街頭行動、政府との交渉、世界の運動との連携などの活動を重ねています。活動の一環として『自由貿易ってそんなにいいの？』(500円)、『あなたにとってWTO・FTAとは？』(350円)の2冊のブックレットを発行、現在3冊目を準備中です。WTOをわかりやすく解説したビデオの制作も進めています。



●私たちの生活とWTOの関連をわかりやすく説明したブックレットです。

●最近の活動につきましては、ブログ「脱WTO草の根キャンペーン」(<http://no-to-wto.blogspot.com/>)をご覧ください。

スタッフのひとりごと

宝物

経理担当 香取 佐和子



イラスト／かじの倫子

先日、子どもたちが卒業した小学校の合唱部のスプリングコンサートに行ってきた。このコンサートは合唱部の6年生の卒業式にあたり、また今年も11年間合唱の指導をして下さった恩師の転任が決まっていたので、そのA先生の卒業式でもあった。

4年生から卒業するまで毎日の早朝練習には6時に起床し7時には家を出て基礎体力作りから発声練習、夏のNHKコンクールの神奈川県大会にむけて練習する。夏休みには親も交代で練習に付き添い子供たちの歌声に耳を傾け、家では夏風邪をひかせ

ないようにクーラーの微調整に気をつかい、食事に気をつけ、規則正しい生活を心掛け…、本番当日を迎えるまでは親も気が抜けないのである。

先生の指導、校長先生はじめ他の先生たちや家族の協力、子どもたちの頑張りが功を奏し、毎年上位入賞を果たしている。子どもたちは合唱を通じて実にさまざまな事を学んだのである。毎日の積み重ねの大切さ、音のとれない時に先輩に親切に教わり今度は自分が後輩に教えてあげる、自分で自分の体調を管理する、一日の時間の配分を考え規則正しく生活

する、合唱の歌詞を良く理解し日本語の美しさに目覚め、想像力がたくましくなる等々。そして親もまた、子どもと一緒に学び楽しみ感動し感謝するのだ。今振り返ってみても、親子で合唱に没頭していた時期はキラキラと輝いており一番楽しかった思い出である。子どもたちがまっすぐに成長してくれた事はこの体験によるところが大きいと心から感謝し、A先生に巡り会えたことはとても幸運だったと思っている。

映画『ホテル・ルワンダ』

みるよむきく



監督・脚本・製作：テリー・ジョージ 出演：ドン・チードル他

九四年、ルワンダの首都キガリ。内戦が終わり、和平協定が結ばれようとしていた。しかし、フツの大統領が飛行機事故で亡くなり、「大統領をフツが殺した」というラジオ放送で状況は一変する。怒りを爆発させるきっかけを待ちかまえていたかのようなフツの人たちは、一斉にツチの人たち（一部フツの穏健派）を襲撃し始めた。百日間で百万人が殺された、というルワンダの大虐殺が始まった。

主人公のポールが支配人を務める外資系高級ホテルは、フツの襲撃から逃れてくるツチの人たちで難民キャンプのようになっていった。この悲惨な状況下でも、ポールは国連や国際社会が助けに来てくれると思っていた。しかし、国連軍が来たのは、在留外国人だけを救出するためだった。「あなたが信じて

いる」西側超大国は、あなたたちを救う価値がないと思っている」と平和維持軍の大佐はつぶやく。次々に迎えるバスに乗る外国人たちと、それを見送るルワンダの人たち。それまで虐殺の様子を撮影していた外国ＴＶクルーのジャックもバスに向かう。外は雨。バスに向かうジャックに傘をさしかけたホテルの従業員に、彼は言った。「傘などいらない、恥ずかしい」

主人公のモデルとなったルセサバギナ氏は映画の日本公開を記念したシンポジウムに來日し、「この映画で、問題に目を向けてほしい」と訴えた。現在、ルワンダでは民衆裁判などを通して和解が進められている。しかし、このような問題は今もスーダンなど各地で起こっている。「虐殺の様子をＴＶに流したところで」世界の人々は『怖いね』と言うだけでデザイナーを続ける」とジャックが自嘲気味に言うシーンがある。九四年夏、私は学生で、その「世界の人々」のなかの一人だった。でも、もう無関心ではいられない。この映画を見て、本当にそう思った。（コンサート事務局 石川 朋子）

※映画に関する詳しい情報は、公式ホームページをご覧ください。

URL : <http://www.hotelrwanda.jp/>

タイ



■「水が届いた！」津波被災地の子どもたちが通うセンターにて。

■**地場の市場づくり**

地域循環の流通システムを作り出すために市場づくりを進めている。1～2月にアジア農民交流センター、WE21ジャパン、日本ネグロスキャンペーン委員会のスタディーツアーを受け入れた。フィリピンの農民との交流で、サトウキビ栽培から有機農業へ転換した経緯などを共有した。本プロジェクトは06年3月で終了するが、市場は今後も市場委員会を中心とした村人たちによって継続される。(松岡)

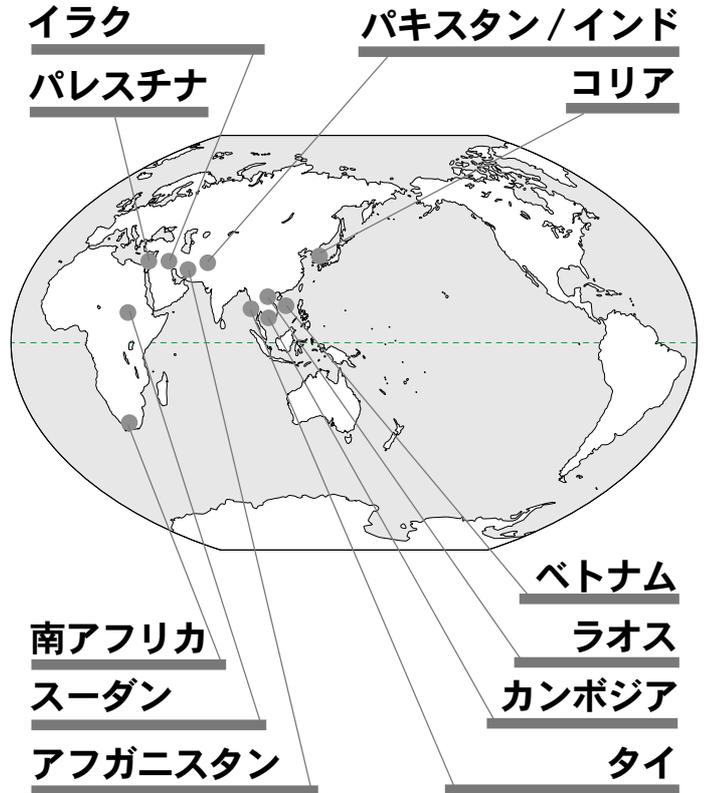
■**タイの農村で学ぶインターンシップ**

開発に関心がある人を対象に、タイの農村で生活して学ぶ機会を提供するプログラム。10期生を受け入れ、今年度で終了する。2月に修了生11名で合宿を行なった。今後も修了生のネットワークは続けていく。(森本)

■**スマトラ島津波被災地支援**

被災した雇用主の下で働くビルマ人労働者は厳しい労働条件から生計回復が進んでいない。ビルマ人支援団体と協力し、雇用・居住安定のためにパンガー県に短期滞在用住宅を建設した。ビルマ人の子どものラーニングセンターに飲料水と救急箱を提供、教師への健康教育トレーニングを実施。(堤)

JVCは、現在11の国/地域で活動しています。



ベトナム



■「研修を受けて、果樹の栽培に慣れてきたよ」

■**農村開発 (ホアビン省)**

04年から延長期に入った本事業では持続的農業と環境保全に関する活動を強化しており、その一つとしてナムソン村で環境教育に取り組んでいる。小・中学校の生徒による「緑クラブ」が結成され、放課後を利用して様々な活動を行なっている。

生徒と教員が中心になってホーチミン青年団の成立記念日である3月26日にイベントを開催し、寸劇、クイズ、環境をテーマにした絵画コンテストなどを通じて、村の森を守ることやオゾン層問題まで幅広く環境問題について参加者が考える機会となった。(伊能)

■**自然資源管理 (ソンラ省)**

住民が自然資源を活かしながら生活改善を目指す取り組みを支援している。共有林の成長と共に、それをどう利用していくかが住民の間で現実味を帯びてきており、利用規則について各集落で話し合いを始めている。また、昨年果樹栽培研修を受講したモデル家庭を対象として、追加の研修を実施した。今後、このモデル家庭を中心として、周辺の住民へ活動を広めていくことを計画している。(栗原)

カンボジア



■「干ばつで潤れないように、井戸をもっと深くしよう」

■**持続的農業と農村開発 (SARD)**

安全な水や食糧の確保を目指して94年から活動。本格的な乾季に入り、浅井戸の改修工事が本格化。浅井戸の底を掘り下げてパイプを入れ、乾燥が最も厳しい4～5月でも安全な水が利用できるよう改良している。(山崎)

■**資料・情報センター (TRC)**

持続的農業の資料を95年から提供。05年の利用者は1,074名と若干減少したが、貸出数は1,760冊と1割程増加。(山崎)

■**技術学校**

自動車修理の職業訓練校と整備工場の運営強化。プノンペン校2年生は受講を終え、工場実習。移転工程に進展はない。15省庁と国際機関・NGOを含む国家職業訓練評議会が創立され、JVCも参加。シアヌークビル校の教材などのプノンペン校への委譲リストを作成。(米倉)

■**調査研究・政策提言、ネットワーク**

カンボジア市民フォーラムの人権調査。ENJJ (ODAとNGOの定期協議)にて、日本政府の「基本的人権や良い統治」支援についてNGOからの質問を準備。CEDACのHMB事業モニター。他、国連人間安全保障基金の評価に参加。(米倉)

アフガニスタン

■女性と子どもの健康改善支援(ナンガルハル県)

診療所は1月からの拡張工事もほぼ完了し、新年度から外来診療、母子保健がより機能的に運営できるようになる。伝統産婆の研修は、4集合村で実施したフォローアップの成果をもとに、次年度への改善案を作成した。女性医療従事者養成コースは、研修センターの新所長と支援内容について合意し、生徒の通学車両の支援を開始した。安全な水の供給と衛生教育は、先発地ゴシュタ郡での活動が終了し、45カ所の井戸掘りと衛生教育の評価を実施、後発地シェワ郡ゴレーク集合村の予備調査や実施村の選定を前に、郡長やコミュニティーと調査計画の作成や井戸選定委員会の設立を行なっている。(谷山)

■シギ村女子高等学校支援

机や黒板の発注を終え3月中旬に贈呈する。日本向けにアフガンを紹介するための教材「アフガンの箱」作りを、生徒と協働で開始した。(谷山)

■政策提言・ネットワーク

JANN(日本アフガニスタンNGOネットワーク)の調整員エミリー・パーキンを迎え、JANNと大使館の懇談会を実施。(谷山)



■「わ〜い！水が出たよ」45基の井戸が完成した。

ラオス

■森林保全(カムアン県)

村人の生活を支える森を守るため、土地森林委譲(LFA)の制度を使って村の権利の確保を行なっている。1月にマハサイ郡ラカオ村、2月にヒンブン郡ナポー村においてLFAを開始した。両村とも国道近くに位置していることもあり、出稼ぎの多い村である。3月には新しい活動対象郡のブラパー郡ナコー村でもLFAを実施する予定。今乾季には10村のLFA実施を予定していたが、カムアン県農林局の組織改変や洪水被害により作業が進まず、実施村数は計3村程度の見込みである。(名村)

■複合農業(カムアン県)

米不足や水不足などを防ぎ生活の改善につながる活動を97年から行なっている。野菜栽培調査をマハサイ郡ラオ村、ナドゥー村で実施した。調査の結果、カボチャ、パパイア、サトウキビなど、保存可能な野菜の栽培を希望していることが明らかになった。余剰分の野菜を売り、現金収入に繋げる。12月に田植えを行なった幼苗一本植えの試験栽培は乾季の暑い日ざしを受け順調に成長している。1本の苗が50本にまで分結した株も見られ、4月の収穫が楽しみだ。(名村)



■「森？昔と比べたら減ったねえ」土地森林委譲前の準備

パキスタン / インド

■大地震被災地支援

バタグラム県で仮設トイレの設置とトタン板の配布を行なっている。2月上旬に現地調整員として藤井卓郎を派遣した。冬を越した後の衛生環境の悪化を防ぐため、仮設トイレの建設を行なっている。3月初旬には110基を導入することができた。女性スタッフによる衛生教育を同時に行なうことで地域への定着を目指している。

寒い冬を越すためのトタン板の配布も始まり、3月初旬までに10家族分の配布を完了した。トタン板は屋根材や壁材など汎用性が高く必要としている人は多い。JVCは、地震の影響がより大きい人々(孤児や未亡人、障害児など)に行き届くよう、村々を訪れ人々の話に耳を傾けながら活動を展開している。(藤井)



■「僕たちが使うトイレだよ」110基の仮設トイレが完成。

南アフリカ

■環境保全型農業(東ケープ州)

安定した食料生産と農村の復興を目指し、環境保全型農業の研修と普及を行なっている。2月に畑のモニタリングを9村で実施。レベルスクルーフ村では農民同士の学びあいが活発になり、畑の生産性が向上した農民が多かった。3月にローワーカラ村で篤農家ミーティングが開催され、7村から26名の農民が参加。有機大豆で作った豆乳を持参し、作り方を紹介した農民もいた。(小林)

■HIV/エイズ(リンポポ州)

感染予防、HIV陽性者への支援、在宅介護、エイズ遺児支援を実施。政府の教育・トレーニング機関から認定を得る申請を行なった。方針策定、看護助手トレーニングカリキュラムなど多岐にわたる書類を提出。3月にジンバブエ赤十字の協力を得て、同国へのスタディーツアーを実施した。(青木)

■子どもの教育支援(ジョハネスバーグ市)

地域住民が運営するテボホ障害児ホームを支援している。比較的障害の軽い4名が小学校に週3回通えることになった。介護スタッフに「乳幼児期の発達と障害児へのケア」研修を実施。日本大使館の援助を得てリハビリ室を建設中。(津山)



■「今日はなにで遊ぶか」テボホ障害児ホームの新スタッフ。

イラク

■小児ガン・白血病医療支援

バグダッドとモスルの病院に白血病の治療薬の寄付を行なうなど、支援を継続している。イラクでは05年12月に国民議会選挙が行なわれたものの、06年3月中旬時点でまだ新政権が発足せず混乱が続いており、治安状況が悪化しているが、情勢を見極めつつ支援を続けることができている。隣国のヨルダンからイラク国内へ4便の輸送を行ない、24,800ドル相当の支援を実施。

■ネットワーク活動

JVCも加わる日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）では2月にバグダッドの小児ガン専門家の医師を日本に招聘し、臍帯血バンクの見学などを通して専門家との交流により先進的な医療知識を深めてもらった。一方、他団体との共催で東京で行なった講演会を通して一般参加者にイラクの小児ガン治療の実情を伝えた。JIM-NETではこのほか、ボランティアにちなんだ募金キャンペーンを行ない、一般向けに支援を呼びかけた。（原）



■「無事に届きますように」ヨルダンからイラクに向けて、白血病の薬を出荷。

パレスチナ

■幼稚園児栄養改善支援

国際 NGO と共同でガザ地区の幼稚園児に牛乳と鉄分強化ビスケットを提供している。JVCは5つの幼稚園、500人の園児を支援。1～2月にガザの物流の検問所が封鎖され、一部牛乳やビスケットが不足した。2月上旬に封鎖は解除、その後牛乳などの供給に問題は起きていないが、検問所の封鎖は断続的に続いている。（藤屋）



■「ピアノに合わせて歌ってみよう」トラウマを持つ子供たちの特別学校にて。

■トラウマを持つ子どもたちの治療支援

重度のPTSD（心的外傷後ストレス症候群）・トラウマを抱える子どもたちのための特別学校「ホーリー・チャイルド・プログラム」を通し、言語・音楽療法を支援。音楽教師が決まり、毎日子どもたちの教育にあたっている。（藤屋）

■子どもの文化・教育支援

ベツレヘムの難民キャンプのハンガラ文化センターを支援。学生ボランティアが様々な企画を主体的に運営している。（藤屋）

■「健康と人権」のための活動

「分離壁」の建設に伴い、特に医療保健へのアクセスが困難になっている東エルサレムの住民に対する巡回診療・保健指導への支援を計画中。（藤屋）

コリア

■子ども絵画展

JVCも参加している「南北コリアと日本のともだち展」実行委員会では、東京・平壤・ソウルの3か所で子どもの絵画展を開催している。

05年度は12月のソウル展をもって事業を終了した。

韓国NGO・南北オリニオッケドム主催によりソウルで開催された「東北アジアこども平和絵画展」には日本から14名の子どもが参加した。日本から実際には参加できなかった子どもたちも、等身大の自画像をはじめとする作品で参加した。

なおこの行事に関連して、2月にオッケドムのスタッフが来日し、評価と計画を行なった。日韓の子どもが、それぞれの絵画展を相互訪問するのは通例となっているが、展示や交流の内容に、より連関性の感じられる企画をつくることで合意した。06年度は5月にソウル、6月末に東京での絵画展が計画されている。（寺西）



■ソウルに渡った等身大の自画像。次に目指すのは平壤！

スーダン

■井戸づくり支援

（ダルフル）

治安状況が改善せず、まだ井戸づくりは実施できていない。実施場所は西ダルフルを予定しているが、治安状況がより良い南ダルフルでの実施可能性を、協力団体「イスラミック・リリーフ」と協議していく。（岩間）

■難民帰還支援（スーダン南部）

内戦終了を受け、海外の難民キャンプからの人々の帰還が始まっている。JVCは難民帰還における輸送整備支援を実施するため、3月に車輛整備専門家の浜口龍太さんとプロジェクト調整員・岩間邦夫を派遣。難民帰還に使用される車輛の整備・修理を担うために必要な手工具の導入や機材の調達準備を開始した。整備工場を運営する「スーダン教会評議会」との協力で実施していく。（岩間）



■「まずは最低限の工具で始めてみよう」自動車整備工場にて。

自然を満喫しに

来ませんか

(山口県) 臼井 大和

私は独身時代の三十数年前、まだベトナム戦争が終結していない東南アジアのラオスで二年半ボランティア活動をしました。その後帰国して、サラリーマンとして会社に家庭と夢中で過ごしましたが、七年前の三度目のラオス訪問の際に、JVCラオス事務所へ立ち寄る機会に恵まりました。そこで現地の若いスタッフたちが、熱心にかつ地道にネイティブな人々と活動する様子をつぶさに拝見し、その姿に若かった頃の自分を見る様な



■建設中のログハウス。「お手伝いも募集中です!」

思いがして、新鮮な気持ちで帰国しました。JVCの設立の主旨に共鳴すると同時に、微力ながら協力させていただけようと、会員となっています。私事ですが、二人の子供も社会人となり、私自身定年を迎え、ロハスな生活を兼ねて田舎でボランティアのお手伝いをしようと思いい、ログハウスの建設を始めました。都会の雑踏から離れ、JVCの活動に共感できる人たちの憩いの場(息抜き)の場となればと思っています。昨年末、棟も上がり屋根もできました。泊まれるようになるのはもう少し先になりますが

国内ひろば

JVC network

3月19日(日)、シンポジウムを開催しました。

湾岸戦争から15年・イラク戦争から3年 私たちは、イラクとどう向き合うのか

悪化する治安、増える一般人の死傷者、正式政府樹立の難航…。様々な課題を抱えるイラク。混乱の根源ともいえるイラク戦争の開始から、三月二十日で三年を迎えました。また、九一年の湾岸戦争から十五年目の節目の年でもあります。政府、メディア、NGOは湾岸戦争以来イラクとどう向き合ってきたのでしょうか。そして、これからどう向き合っていくべきなのでしょう。

各界で活躍する方々を招いてのシンポジウムを三月に新宿・カタログハウスで開催しました。長年イラクを見つめてきた専門家の酒井啓子さん、NHK記者でイラク戦争の報道に携わってきた竹沢顕さん、元JVCのスタッフで湾岸戦争後に緊急支援に参加した柴田久史さん、JVCも参加しているJ・I・M・N・E・T(日本イラク医療支援ネットワーク)の佐藤真紀さん(元JVCスタッフ)が、それぞれの経験をもとに意見を交わしました。

「湾岸戦争を起こさなければ、ビン・ラディンも現れなかったし、九・一一もなかったはず。一度戦争という手段を取ったことで、新たな紛争や戦争を引き起こしてしまっ」と、酒井さんは語ります。

満員となった約百席の会場からは、「あきらめず、できることから現状を変えていくことの大切さを感じた」「普段メディアからは伝わらないことを知ることができた」など多くの感想をいただきました。

このシンポジウムの内容は、後日JVCのホームページに掲載いたします。お楽しみに。(広報担当 広瀬 哲子)

(夏頃かな) 頑張っています。山歩き、みかん狩り、シイタケ栽培、ピザ釜、炭焼き釜などを計画しています。多くの子供たちの遊び場としても提供できるものにと夢を持っています。時間の取れる方は、ぜひ遊びに立ち寄って、アイデアをいただければと願っています。

● ログハウスを訪問したい方は…

住所／山口県美祢市伊佐町 伊佐五三六・三
お問い合わせ(臼井さん)／
〇八三七・五二一・一六四一



■熱心に話を聞く参加者の面々。

会員担当インターン募集中です。

JVC東京事務所は、今年もインターンを受け入れています。例年どおりの広報、ホームページ、調査研究に加えて今年はアフガニスタン事業、代表補佐が来てくれることになりました。そして、会員担当インターンを昨年に引き続き市民社会創造ファンド様のインターンシップ・プログラム枠で募集することになりました。

市民社会創造ファンド
<http://www.civilfund.org/>

募金にご協力ありがとうございます

JVCの活動は、皆さまの募金に支えられています。

① JVC 募金

JVCの各国での活動に役立てられます。募金先をご指定いただくこともできます。

口座番号：00190-9-27495

加入者名：JVC 東京事務所

1月計 **4,522,444 円**

2月計 **5,711,725 円**

	1月	2月
無指定	353,574 円	659,466 円
タイ	12,175 円	6,000 円
(津波被害)	4,500 円	6,660 円
カンボジア	10,000 円	800 円
ラオス	5,000 円	19,000 円
ベトナム	0 円	0 円
南アフリカ	45,000 円	1,000 円
パレスチナ	3,349,010 円	3,321,000 円
アフガニスタン	330,000 円	1,000 円
コリア	8,000 円	3,000 円
イラク	167,000 円	295,472 円
スーダン	28,000 円	13,000 円
パキスタン地震	210,185 円	1,266,907 円
調査研究	0 円	0 円
JIM-NET	0 円	30,000 円

② 犬養道子「みどり一本」募金

JVC活動地での環境保全活動に使われます。

口座番号：00100-8-212497

加入者名：犬養道子「みどり一本」

1月計 **247,846 円 / 26 件**

2月計 **243,000 円 / 27 件**

③ JVC マンスリー募金

銀行や郵便局の口座からの自動引き落としを利用する手軽な募金方法です。

1月計 **1,010,200 円 / 804 件**

2月計 **1,077,200 円 / 917 件**

編集後記

先週末の午後に新宿御苑で連れと花見。好天に恵まれて、すごい人出。大勢が芝生を歩くので砂塵が舞い上がり、まるで春霞のようだ。歩道にせり出した桜を真正面に見上げられるベンチで食事をして、日本庭園風のあたりの芝生で2時間ほどごろ寝。くだらない話をしているうちに、空の色がゆっくりと薄れていく。その後、紀伊國屋書店で本を物色。大切な、ゆるい休日。(H)

新スタッフ紹介

賀川 正弘

ラオス事務所現地代表



七年間にわたるアメリカでの研究生活に終止符をうって、本年二月からラオス

に赴任し、首都ビエンチャンでのラオス語研修と前任者からの引継ぎなど、かなり密度の濃い毎日を送っています。近年、開発の波がここラオスにも押し寄せており、美しいラオスの森が失われています。とても責任の重たい仕事ですが、ラオスのおいしいもち米を食べながら、有能な現地スタッフと共に、ラオスの森と村人の生活を守るために頑張ります。

藤井 卓郎

パキスタン地震被災支援
現地調整員



パキスタンとアフガニスタンに関わり始めて十年以上になります。旅行者として訪れ、おなかを壊して逃げ

帰ったのが最初でした。その後イスラマバード(留学生)、ペシャワール(ペシャワール会ワーカー)、カプール(大使館員)、カンダハール(国連職員)と渡り歩いて、いまはバタグラム(JVC)です。JVCを初めて知ったのは、高校生のころだったと思います。教育テレビのNGO座談会にシャブラニールや曹洞宗ボランティア会などと並んで出ていました。JVCの方だったかどうか記憶していませんが、「日本に帰ってもタイ風の味付けが懐かしくて、唐辛子をかけてうどんを食べちゃうんですよね」と仰ってました。今ではその気持ちがよくわかります。

2005年冬募金にご協力くださり、ありがとうございました。

04年末に引き続いて大規模な震災がパキスタンで発生し、25周年記念シンポジウムの準備もそこそこに対応に追われた05年末。年が明けてからも、政治状況が激変したり困難な状況が続く中で、皆さまからご支援いただいている活動を継続するために各地で試行錯誤を続けています。どのような場所・環境にあっても、そこに住む人たちの視点に立ち、明日に続く生活を支えたい。この冬は、950万円を超えるご支援をいただきました。



■パレスチナのホーリー・チャイルド・プログラムでの音楽療法の一環。生まれながらにして“紛争地”で暮らす彼らにとって、トラウマはまったく他人事ではない。

2005年冬募金合計

1,418 名 9,563,050 円

[募金額の20%以内は管理費とさせていただきます。また、上記募金の金額は、ページ左上のJVC募金の欄には含まれておりません。]

特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター

第7回 JVC 会員総会のお知らせ

日時：2006年6月10日（土）10:00～12:30

場所：東京都内（同封の案内書をご覧ください）

議案：1) 2005年度活動報告および決算報告

2) 2006年度活動計画および予算案



午後（13:30～15:30）、交流会「JVCのつどい」を企画しておりますので、ぜひご参加ください。

※参加される場合は昼食をご持参ください。詳細は、6月初頭に別途お送りする議案書に

同封/記載いたします。



日本国際ボランティアセンター（Japan International Volunteer Center）は、1980年2月、タイのバンコクで誕生した市民による国際協力団体です。JVCの活動目的は、国際社会のなかで、社会的、精神的、物理的に困難な立場を強いられているアジアやアフリカ・中東の人びとに協力すると同時に、地球環境を守る新しい生き方と人間関係をつくり出そうということにあります。そのため私たちは、自らの意志でJVCに参加し、活動を継続してきました。JVCはボランティアという言葉で、「自発的意志をもって、責任ある行動をとる」という意味で団体名として使っています。

■ JVCでは会員を募集しています。

会員は総会に出席し、JVCの方針などを決定するほか、情報・資料の入手、各種の活動・報告会・学習会等へ参加することができます。会員の方には年7回この会報をお届けします。

◎一般会員 10,000円

◎学生会員 5,000円

◎団体会員 30,000円

※それぞれに正会員と賛助会員があります。

入会のお申し込み、会員の方のメールマガジンのお申し込み、住所変更などは会員担当へ。

s-tera@ngo-jvc.net

会員数（4月4日現在）合計 1481人
（正会員 671人 賛助会員 810人）

■ オリエンテーション(説明会)へお越しください。

JVCの活動内容をご紹介します。お気軽にご参加ください。（無料。予約不要です）

第1月曜日 午後7:00～8:30

第2・第4土曜日 午後2:00～3:30

※会場はJVC東京事務所です。

■ E-mail

info@ngo-jvc.net

■ ホームページ

<http://www.ngo-jvc.net/>

※本誌の記事・写真等の無断転載・複写を禁じます。
※本誌は再生紙を使用しています。